

平成16年

県内系統・関係機関年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

植村正治

新年あけましておめでとございます。

れました。

平成十六年の新春を迎え、県内漁業者の皆様、そして常日頃漁協の業務運営に奮闘されておられます役員の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

このような大変厳しい環境の中で、漁業は本県の基幹産業として地域経済を支える重要な役割を果たしております。

さて、昨年は、台風十四号による漁船や漁業施設等の被災、そして海水温の変動によるすめいかの不振、エチゼンクラゲの大量発生、又、むつ湾東部海域では、長期の天候不順・しけ等によりはたて外套膜の損傷及びポリドラ被害、更には、はたて稚貝の斃死、成貝の価格低迷等により漁業者は大打撃を受け漁家及び漁協は懸命な努力にも係らず、大変厳しい経営を余儀なくさ

健康を守る大きな役割を果たしており、国民の食料として、安全・安心に努め良質な水産物を将来に亘り安定的に供給して行かなければなりません。

そのためには、官民一体となり秩序ある漁獲方法を構築し、漁業者による水産資源の適切な管理保存を持続しながら資源回復に努めていかなければなりません。

そして、下水道整備を積極的に推進する

ことにより衛生的で快適な生活環境が維持されると同時に海が浄化され、更にはアクセス整備により高度医療施設や文化施設の活用が容易になると同時に、都市住民と漁村との交流が盛んになっていくことが重要であり、緊急の課題であります。

一方、漁協経営においては、自らも経営の合理化・合併等により自立漁協の確立を推進し、組合員の経営と生活を支える事業を強化し、将来にわたって安定した経営基盤を築いていかなければなりません。

このような中において、資源有限・漁業無限をモットーに、更なる努力をしながら、強固な団結力をもって漁協の発展と豊かな住み良い明るい漁業・美しい漁村づくりに邁進しようではありませんか。

皆様のご健勝とご繁栄並びに海上安全を心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長

古川 俊

新年あけましておめでとございます。

いまここに新たな平成十六年を迎え、今年こそはとの強い希望を胸に、浜の皆様とともに心から新年をお祝いしたいと思いません。

昨年は、日本経済が四月のバブル経済崩壊後株価最安値の七、六〇七円から一時は一、二、〇〇〇円に達するかとの観測も出た中、九、〇〇〇円を超えて推移し、景気回復基調を見せ始めたと思われたものの、依然、雇用環境の悪化や社会保障制度の後退に歯止めが利かず、引き続き厳しい一年でありました。

私達漁協系統にとっては、WTO水産物交渉は一朝一夕にはいかない大きな問題となっており、日本提案の実現を求めて、全漁連のリーダーシップのもとに二度にわたる全国漁業者集会を開催いたしました。

全国の漁業者が交渉の行方を切実な思いで見守っているところであります。又、信用事業にとっては、全国漁協オンラインセンターと北海道信漁連のシステム統合に向けた準備を終え、本年一月よりシステム統合がスタートいたしました。組合員・利用者の皆様の利便性が向上するものと期待しております。

一方、本県の漁業状況を見ますと、春先に日本海地区でヤリイカ漁の好調が伝えられたものの、ほたて養殖漁業における斃死、台風第十四号による漁船等損壊、大量襲来したエチゼンクラゲ（大型クラゲ）による漁獲量の激減など、その被害額、影響は甚大なもので、厳しいものとなりました。しかし、かかる状況においても資源管理の旗を降ろすことなく、会員皆様の力の結集により、この難局を乗り越えて参りたいと考

えております。

私ども「JFマリンバンク青森県信漁連」と致しましては、皆様の貯金を大切にお預りすることはもちろんですが、もう一つの大きな使命であります貸出金については、必要としている時に適切に対応できる貸出メニューを取り揃え、浜の金融機能維持に努めて参りたいと存じます。また、貯金でお預りした資金につきましては、貸出金も含めコンプライアンスを遵守し、堅実に資金運用を図っていく所存であります。尚、組合員の皆様の御理解と漁協、関係団体並びに行政の多大なる御協力をいただき実行しております本会の経営改善計画につきましては、平成十五年度は順調に進捗しておりますことをお知らせいたしますとともに、何卒、平成十六年も変わらぬ御愛顧・御支援を賜りますよう、深い感謝の念を表しまして、よろしく御願い申し上げ、御挨拶いたします。



青森県漁業信用基金協会

理事長 植村正治

新年あけましておめでとございます。平成十六年の輝かしい新年を会員の皆様とお迎えすることができましたことを大変うれしく思います。

また、日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

特に昨年は協会が創立されてから五十年と節目の年にあたり、記念式典、祝賀会を開催したところ多数の御出席をいただき衷心よりお礼申し上げます。

さて、昨年もこれまで同様、景気の悪化

による企業倒産の急増、雇用問題、長期化している株価や市場金利の低迷等により国民生活は大きく揺れましたが、今年こそは景気の回復を願うものであります。

一方本県水産業（特に中小漁業者）においても、長引く不漁並びに後継者問題等が依然として続いており、また、春先の暴風等による、むつ湾養殖ホタテの大量へい死被害、日本海沿岸から三陸沿岸にかけて大量に流入したエチゼンクラゲによる定置網漁の被害等もあり、ますます厳しいものとなっております。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様及び「系統団体」が一丸となり、その役割を発揮することが必要であり、特に平成十三年度から実施した沿岸漁業推進関連資金（県漁連・信漁連・協会三者で創設）

は、お蔭様で好評をいただいております。昨年度は前述の資金に加え、新たに沿岸漁業地域の活性化のため、世代交代に伴う中核漁業者の育成・確保が必要であるとの観点から、『沿岸漁業共生経営安定化資金』を創設し、今後とも浜の活性化のため、漁業者並びに会員がより利用しやすい公的保証機関として積極的に努力して参りたいと思っておりますので皆様のご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。

終りに、皆様のますますの御繁栄と御健勝をお祈り申し上げます、年頭の御挨拶いたします。



青森県農林水産部

部長 秋谷進

新年あけましておめでとございます。

日頃本県水産業の発展に御尽力をいただ

いております皆様謹んで新春の御挨拶を

申し上げます。

さて、本県水産業の昨年一年間を振り返

りますと、漁況については、冬季から春季

にかけて本県日本海の主要魚種であるヤリイカの漁獲量が前年を大幅に上回りました。

夏季には深浦町や東通村でマグロ漁が好調に推移し、十二月には日本海沿岸で一昨年に続き二年連続で大量のハタハタが接岸するなど、本県沿岸資源の回復の兆しが見えました。また、ホタテガイ漁業では、平成七年から禁輸措置がとられていたEU向け

の輸出が再開され、価格低迷が続く中で久しぶりの朗報となりました。十月に島根県で開催された全国豊かな海づくり大会では、青森市のナマコ増殖の取組みが高く評価され、見事水産庁長官賞を受賞しました。内水面漁業では、全国的にシジミ資源が減少しているなかで、本県産シジミはブランド力が高まり、漁獲金額が好調を維持しました。さらに、「県の魚」ヒラメについては、平成十四年の漁獲量が三年連続で、また、放流事業を開始してから八度目の日本一になることが明らかになりました。このように「水産県青森」を全国的にアピールできた年でありました。

反面、スルメイカが不漁となり、春先から夏にかけてホタテガイの大量へい死被害が生じ、十月上旬からは大型クラゲが大量に出現し、サケ等の漁獲に大きな被害を与えています。このため、県では、ホタテガイ漁業者に対して低利の資金融資など機動的な対策を進めてきたところです。

本県の水産業は、これまで、第一線で精励されている漁業関係者の皆様の御尽力により、全国に対する水産物の安定供給の役割を果たすとともに、地域経済や社会の安定・発展を支える重要な役割を担ってきま

した。しかし、我が国周辺域における水産資源は総じて低い水準にあり、また、長期化する魚価の低迷等厳しい情勢を反映して、漁業経営は苦しい状況が続いております。

このため、県では、本県の基幹産業である水産業の再生・新生に向け、生産から流通までを結びつけ、収益性のアップを図る「攻めの水産業」を積極的に推進し、水産業の振興を図る考えです。

具体的には沿岸漁業においては、ヒラメ、サケ、サクラマス、ホタテガイなどの有用魚種の持続的利用を目指した資源管理型漁業と生産増大を図るための種苗放流等を行う栽培漁業を進めながら、生産者みずからが青森の水産物のブランド化を進めるよう指導して参ります。

また、沖合・遠洋漁業については、全国有数の漁業基地である八戸港の再生を図るため、日本一の水揚げ量を誇るイカ類の漁場確保に努めるとともに、県の指導のもとに地元水産業界が進めるサンマ漁船の誘致などへの取組みを促進して参ります。

流通、加工については、高品質で安全・安心、おいしいという青森ブランドの確立のため、市場や加工場における衛生管理の徹底や食表示の適正化、トレーサビリティ

システムの構築、試験研究機関による新商品・高度加工技術の開発などにも取り組んで参ります。また、販売促進を図るため、進展著しいIT技術や新幹線の本県開業を活用した産地情報の発信に取組むほか、大消費地と産地の交流会の実施、販売拠点の確保や、イベント、物産展でのPRの展開などを効率的に行って参ります。さらには、関係機関と連携を図りながら、中国、EU等への輸出拡大や海外販路の開拓にも取り組んで参りたいと考えています。

こうした取組みを通じて、関係者一体となつて、食料供給県としての地位を維持し、二十一世紀における安全で豊かな生活を求める県民の要請にも応えて参りますので、皆様の御協力、御支援を賜りますようお願いいたします。

皆様の御健勝と御繁栄を心からお祈りいたします。新年の挨拶といたします。





農林中央金庫

青森支店長

小川 莊 平

漁協組合員ならびに漁協系統団体の役員の皆様、新年あけましておめでとございます。

安定した水産物供給のため、日々不断の努力を重ねておられます皆様方に深く敬意を表しますとともに、私ども農林中央金庫の業務につきまして、特段のご理解とご支援を賜り、心からお礼申しあげます。

さて、昨年の当県水産業界においては、過去に例を見ない自然災害の影響を受け、多くの漁業者の皆様が罹災されましたことにつきまして、衷心よりお見舞い申し上げます。

このような事態を受け、県、市町村、漁業団体においては漁業者の経営を支援する施策をいち早く講じられる等、本県漁業基盤への影響を最大限回避される策を講じられており、これらの取組みに対する漁業関係者の皆様のご努力に対しまして、改め

て敬意を表する次第であります。

当県は全国まれに見る好漁場を擁していますが、これは資源管理、漁場整備とい

た長年にわたる漁業関係者によるこれまでのご尽力の賜物であり、この強固な水産基盤がこれまでの難局を打破してきた力の源と確信しております。この基盤をバネに、平成十六年は漁業関係者の皆様のご努力により経営環境が好転し、浜に活気のある笑顔が満ち溢れんことを祈念してやみません。

一方、漁協系統信用事業においては、昨年一月一日に発効した「JFマリンバンク基本方針」に基づき、破たん未然防止に向

けたモニタリングの実施等が全国的に取り組まれております。わが国の金融機関における不良債権処理が進む一方で、その処理に伴い財務基盤が疲弊した金融機関には公的資金による資本注入が施される等、金融システムの一層の安定化に向けた厳しい予

防措置が講じられております。

漁協系統信用事業も貯金者保護はもとより、浜に対し安定した金融サービスを提供するために、業態、地域、規模を問わず、同じレベルの体制整備が求められており、そのためには一刻も早く安定した「一県一信用事業責任体制」を構築する必要があります。

漁業を取り巻く環境は、なかなか好転する兆しを見せませんが、当県漁業関係者が英知を結集され、地元総力を挙げて明るい展望を切り開かれますことを心からご期待申しあげます。

私ども農林中央金庫といたしまして、県内漁業の更なる発展のために最大限のお手伝いをさせていただきますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年の豊漁ならびに県内漁業関係者の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。